

カンボジアの森林減少最前線 での人々の暮らし

カンボジアの森林減少最前線での人々の暮らし

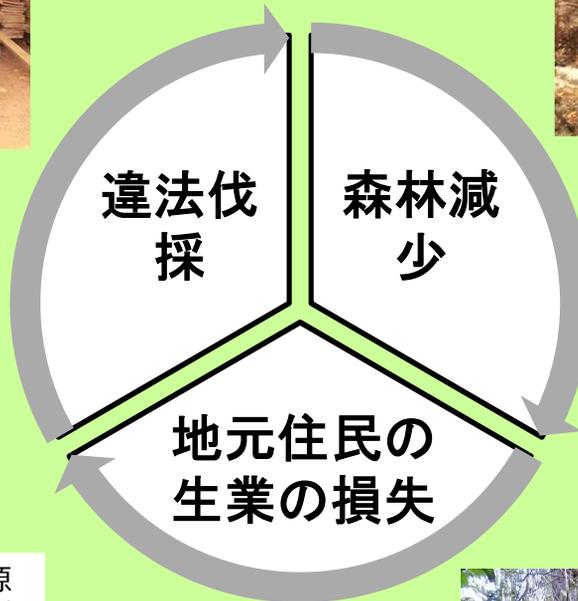


↑写真
押収された違法材



↑写真
森林減少直後の様子

森林減少・劣化の悪循環



地元住民の主な現金収入源となる天然樹脂（含油樹脂）。カンボジア国内では松明（たいまつ）の油、竹・籐（とう）細工の防水、船の漏水防止などに使われるほか、高品質なものはベトナムなどへ輸出されます。

写真→



←写真

天然樹脂（含油樹脂）が採れるフタバガキ科の樹木。立木の幹の下方に穴を開けて火で炙ることで含油樹脂が採取されます。

生物多様性保全や気候変動対策のために日本の官民も支援しているカンボジアの森林保全プロジェクト対象の森林は、フタバガキ科樹木の天然樹脂の供給源です。違法伐採による森林減少・劣化で樹脂が採取できず収入が激減した住民の中には、生計維持のために自らも違法伐採して農地転用する住民もいます。こうした森林減少・劣化の悪循環を断ち切るには、これらの住民への経済的救済措置や違法伐採予防策が早急に求められます。

講師：江原誠（生物多様性・気候変動研究拠点）

カンボジアの森林減少最前線での人々の暮らし(つづき)

本研究はプロジェクトの森林減少・劣化抑制効果を高めるため、違法伐採対策を優先的に行う区域の分布を予測する手法を開発しました。これにより、プロジェクト実施者は、森林減少・劣化で困窮する樹脂採取世帯への応急的な救済や違法伐採の予防措置をどこで強化すればよいか地図化できるようになりました。

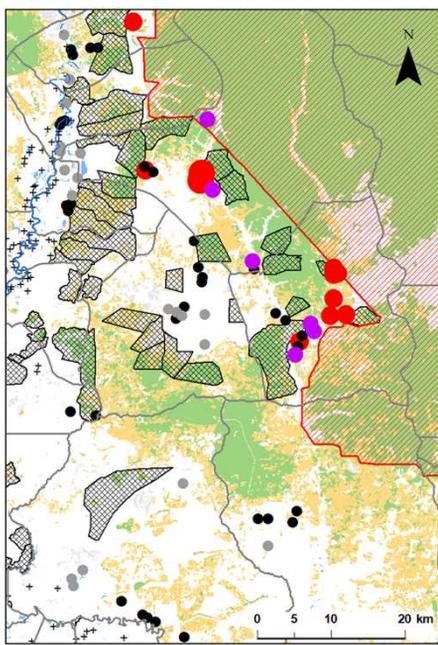


図2:違法伐採による森林減少・劣化の影響を受けた世帯がいる確率の高い村(●●)の場所

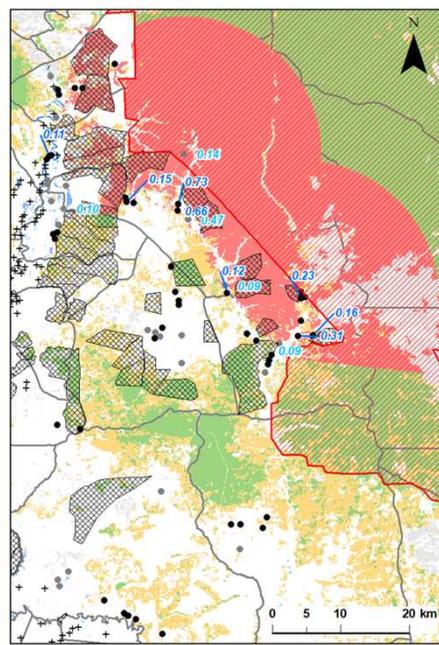


図3:樹脂採取業を守るために違法伐採対策を優先的に行う区域(■)

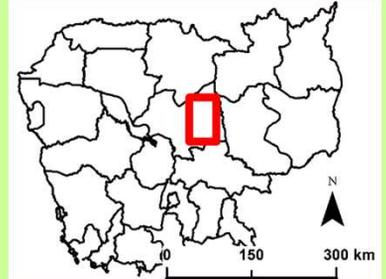


図1:カンボジアの調査地の位置



応急的な救済や違法伐採の予防措置の例:

- 森林減少・劣化の影響を受けた世帯がいる確率が比較的高い村(図2の●●)やそれらを含む行政区では、失職した樹脂採取者を保護区レンジャーとして雇用、非木材林産物を商品化・改善
- 樹脂採取者が比較的多い村(図3の数字が付いた村)から近い、優先的に対策すべき区域(■)では、違法伐採パトロールを強化、コミュニティ林業地を新設、保護区を拡張

この研究は、カンボジア農林水産省森林局、同環境省との国際共同研究です。謝辞:本研究はJSPS科研費 JP16H07434, JP26-2255, 林野庁補助事業「REDD+推進民間活動支援事業」,総合地球環境学研究所(Project No. RIHN14200158)の助成を受けたものです。